



●人権推進課 ☎84-1228

子どもの自己肯定感が高まる はたらきかけを

自己肯定感とは、「自分は大切な存在だ」「自分にはよいところがある」など、自分を肯定的・好意的に受け止める感覚のことです。

令和5年度に実施した「八頭町人権問題に関する町民意識調査」では、自己肯定感が高いことや、他の人の人権を守ろうとすることにつ



ながることが示されています。自己肯定感とは、お互いを尊重し合える社会をつくるための大切な土台の一つです。

8月24日(月)、八頭町人権教育推進協議会学校教育部・保小中人権担当者・社会教育部の合同研修会が開催され、学校・保育所・地域・PTAなどの関係者が、「どうしたら子どもの自己肯定感が高まるか」をテーマとして、自己有用感(誰かの役に立っているという実感)と併せて話し合いました。



研修会で寄せられた意見や感想の一部をご紹介します

「ありがとう」「頑張ったね」を伝える

子どもがしてくれたことに感謝し、「ありがとう」と伝える。結果だけでなく、頑張った過程や小さな前進にも目を向け、「頑張ったね」と声をかけたい。

子どもの「やってみたい」を大切に

子どもの話を最後まで聞き、その気持ちを受け止める。「やってみたい」という思いを大切に、子どもが自分で考え、行動できる機会をつくりたい。

家庭や地域で「役割・出番」をつくる

家庭や地域の中で、子どもが「自分は誰かの役に立っている」と感じられるよう、小さなことでも役割や出番をつくりたい。

「あなたは大切な存在」と伝える

「あなたがいてくれることがうれしい」「あなたは大切な存在だよ」など、何かができる・できないにかかわらず、ありのままの存在を認めるメッセージを伝えたい。

子どもの自己肯定感を育むために、特別なことをする必要はありません。
日々の「ありがとう」など気持ちを伝えることや「話を聞くこと」「頑張りを認めること」など、身近な関わりから始めてみませんか。



誰もが自分らしく暮らすことのできる地域共生のまちづくり

人権について考え、学ぶ機会として、「麒麟のまち圏域で考える ～第52回 人権尊重社会を実現する鳥取市民集会」が開催されます。講演や分科会を通して、誰もが自分らしく暮らせる地域づくりについて一緒に考えてみませんか。

日時 10月7日(水) 10:00～15:00 ※受付 9:30～

場所 とりぎん文化会館

内容 全体会 講演「バリアバリュー 障害を価値に変える」
講師 垣内 俊哉さん(株式会社ミライロ 代表)

分科会 子どもの人権／男女共同参画／同和問題(部落差別)／
障がいのある人の人権／地域における人権の取組／
企業における人権／特別分科会

※申込不要(分科会は希望にそえない場合があります)

問い合わせ 鳥取市役所 人権推進課 ☎0857-30-8071



(株式会社ミライロ
代表 垣内 俊哉さん)